

## 見えているつもりで見えていないこと、見えないからこそ見えること

下村 俊泰 製薬企業勤務/大学教員

自分の周りのこと、社会や会社の中に存在するいろいろなバリアに置き換えながら、聞かせていただきました。普段の生活で、私がいかに相手の表情や態度を目で見て空気を読みながらコミュニケーションしているのかを改めて実感しました。バリアは人間が勝手に作り出したものだということを認識しました。特に、重要な心・意識のバリアはどのようにコントロールできるのか、コントロールできたことはないのかを自分の経験を振り返って考えてみたいと思います。

一方で、表面的な事実だけのコミュニケーションでは不十分なのだということ、特に質疑応答のお話の中で知りました。旅行に行って綺麗な景色の説明を聞くのではなく、綺麗な景色を見て感動している人からこぼれてくる言葉を聞くのが好きだとおっしゃられた時に、驚いたと同時に安心しました。感動は人間にしかできないし感動していることは、うまく表現できなくても伝わるということが分かったからです。

これから AI が急成長していく中で、人間の仕事が AI に置き換わっていくと言われている現在でも、少なくとも感動を伝えることは人の専売領域になると私は思っています。

現在オンライン会議をすることが頻繁にあります、その際に相手がどのように感じているのか、話を聞いているのか、意図が分かりにくい場面が多々あります。カメラをオフにしていればさらに難易度が上がります。機会があれば、大河内先生にどのようなことを意識してコミュニケーションをされているのかをうかがってみたいと思いました。言葉にどのようなことを載せれば、相手に意図がしっかりと伝わるのか、ヒントを得たいです。

バリアを前向きに捉え力強く活動されている姿を拝見して、たくさんエネルギーをいただきました。日々の生活の中で、いろいろなバリアを意識しながらそのバリアの壊し方について意識して行動したいと思います。とりあえず、いろいろなことに興味を持って首を突っ込むところから始めます。

見えているつもりで見えていないこと、見えないからこそ見えることがあると感じています。医薬品あるいはそれ以外のものを通じて健康な未来を作っていくことに取り組んでいますが、見えていることに惑わされず、心で本質を捉えられるようになりたいと思います。

大河内先生、大変興味深いお話をありがとうございました。